

2022年度 佐久長聖中学校 自己評価

目指す学校像	教育理念「自由と愛」のもと、生徒一人ひとりの個性を尊重し、楽しく充実した学校生活を通して、生徒たちが魅力的な人間に成長できる環境整備を積極的に推進する。
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 魅力ある授業を生徒に提供できるための教科指導の研鑽に努める。 生徒の進路実現に向けて、進路指導體制の発展に努める。 生徒との前向きな対話のある生活指導・学級運営を行う。 心身ともに健康で明るい学校生活をが送れるよう、生徒の人権を尊重し安心安全な学校づくりを進める。 学校の教育活動を生徒や保護者、本校志願者、地域に対し、幅広く情報発信を行う。
------	---

評価
A: 十分
B: 概ね十分
C: やや不十分
D: 不十分

	評価項目	評価の観点	評価	具体的取組状況・成果	課題・問題点
1	学習指導 進路指導	生徒の学ぶ意欲を引き出し、主体的に取り組む態度を育む授業が行えたか。	B	■学び合い等、生徒が主体的に活動できる時間を確保したことで、新たな考えや疑問を発見させることができた。■毎時間、パワーポイントやスライドなどを活用することで興味関心を引き出し意欲的に取り組める環境を作った。■単調になりがちな説明は、生徒が興味を持てるよう工夫(アニメのキャラクターのセリフを使った教材を作り)し、反復練習をさせることで苦手意識やマンネリ化を防いだ。	■学習意欲の低い生徒へのアプローチをどのようにしていくか課題である。■時数の関係で生徒同士の学び合いや調べ学習の時間をほとんどとることができなかった。■導入部分では生徒の意欲的な姿勢が見られても、それを継続させる工夫に欠けていたため、その部分の改善が今後の課題である。■学力差に対応するために習熟度別や与える課題を変えるなどの工夫が必要であった。
		問題発見力、課題解決力、表現力、コミュニケーション能力を養う授業を展開できたか。	B	■グループワークの中で問題の発見から発表までを生徒自身がを行い、最後は互いに評価し合う取組を行った。■考えさせる問いかけ・発問を意識して授業を行っている。■ロイロノートや多くの資料を用いて授業を行うことで、資料の読み取りや問題発見から問題解決へとつながる授業を意識できた。■生徒同士の意見交換の場を必ず設け、コミュニケーションをとりながら、自分と仲間の意見を比較して考察することができた。	■教科によっては、授業に必要な教材が多く、現状では各教室にプロジェクターやCDデッキなどが常備されていないため、最低限必要な設備は常備してほしい。■オープンに話し合わせるだけでなく、内容を絞り話し合いをさせる等工夫が必要である。■発達段階に応じて課題や考える時間等を考える必要がある。■表現力、コミュニケーション能力の低い生徒を集団の中でどう働きかけを行えばよいか難しい課題である。
		生徒の希望進路を実現するために、大学入試についての研究を行い、生徒個々に対応した指導が行えたか。	C	■7限目の特別授業で進路探究を行っている。中高6年間を意識させ、その先に目が向くよう指導している。■大学入試の仕組み等について機会をつくって示すことができています。■中学生でも解ける問題もあるので、大学入試問題に触れる機会を設けた。■大学入試や高校入試の問題傾向を踏まえ、定期考査の出題を心掛けている。■共通テストの概要に触れたり、問題の新傾向、今後求められる力等について説明した。	■特別授業で扱うため、全員が進路探究を選択するわけではないので、選択しなかった生徒に広めたい。■進路指導が十分できていない。■個々への声掛けはできたが、その声掛けが適しているのか検証が必要だと考える。■1学年ではあまり大学入試を意識した授業はできていない。■個々に対する課題が難しかったのか、提出が滞ってしまうことがあった。生徒のレベルを見定めた課題を与える必要があった。
		大学のさらに先を意識しながら進路を考えられるようなキャリア教育や進路指導を実践していたか。	B	■前年度行った「EAT想うプロジェクト」の体験をもとに、社会に出てから必要な学力以外のスキルや能力について伝えることができた。■コロナ感染対策のため職場体験は実施できなかったが、事前の学習を通して生徒に働くことの意義や心構えについて伝え、少しずつ自分の将来の進路について具体的に記述できる生徒が増えてきた。■特別に時間をとっているわけではないが、話の流れの中で職業選択の話や社会人に必要な要素について触れた。	■日々の生活について指導を行ったが、進路指導まで十分に行うことができなかった。■道徳や特別活動とも横断的に関連付けて指導していく必要がある。■将来の職業を考えさせる取組の中で、夢を持たない生徒への働きかけが難しい。■探究活動を計画的に行うことが難しかった。理由としては強化部の生徒が大会出場のためいないことがあったり、7限目がうまく活用できなかった。■人気職業の表面的なカッコよさの裏側の大変さを理解させることが難しいと感じる。■生徒の振り返りを継続して取り上げていくとともに、広い視野を持つよう課題を与えていくことが求められる。
2	生徒指導	校内外問わず、いじめ・暴力・SNSトラブルなどのない安心・安全な学校を送るための啓発活動を行い、情報収集を行えたか。	B	■道徳や総合の時間等とおして問題点や人との関わり方について生徒に投げかけることはできた。■日常的にいじめや暴力・SNS等については指導をしている。■常にアンテナを高くし生徒の様子を観察し、その都度個々への対応をして来た。■外部講師を招聘し、講話をとおして注意喚起を促した。■日頃から生徒が相談しやすい人間関係作りを心掛けている。■些細なもめごとともいじめとして考え対応した。	■教科、SHRや道徳の時間に触れてきたが、生徒のスマホ依存、SNS依存は改善されているとは思えない。■SNSは本人からの訴えがないと実態を把握することは難しい。■多忙な日常の中で生徒個人への対応が十分でない場合もある。■生徒同士のこじれた関係、特に女子間のトラブルについてはどこまで立ち入って良いのか、その対応に難しさを感じる。■教師が把握していないところで悩む生徒の早期発見、対応のためより情報交換を密にしていきたい。
		生徒に体罰や暴言と捉えられるような言動を行わなかったか。	A	■生徒との信頼関係を築くことができています。■授業中や個別に話を聞く場合でも、体罰や言葉に気をつけて生徒に接している。■教科指導や部活指導を行う際に、生徒目線で考え対応するよう心掛けている。また、生徒と積極的に話をする場を設け、コミュニケーションをとれるようにしている。■自分自身の日常的な言動について常に細心の注意を払いながら生徒たちと様々な活動を行っている。	■言葉の使い方表現の仕方により生徒に伝わらないこともある。生徒の言い訳を聞く姿勢をしっかり持つ。■体罰になるような指導は行われていないが、言葉の使い方や表現の仕方により不愉快な思いをさせることがないように丁寧に関わる。■自分自身口が悪いので、暴言とまではいかないが気をつけたい。■指導される理由を正しく理解せず、教員の横暴だと騒いでいる生徒がおり、他に与える影響が心配である。どのような指導をすべきか。
3	保護者連携 地域連携	保護者や外部からの声に対してきちんと対応・返答できたか。	B	■保護者の方からの要望に応じて対応できた。■保護者懇談会で上がった声だけでなく、直接いただいた内容や生徒を通じていただいた内容について管理職と相談し対応することができた。■電話やメールに対応はきちんと行っている。■保護者からいただいたメールにはその日の内に回答している。■いただいたご意見をできる限り授業に反映させていただいた。■生徒から保護者への説明が不十分である場合には、丁寧に説明させていただいた。	■生徒の主張と学校が把握している実態の違いから、保護者の方に学校側の指導が十分理解されないこともあった。■保護者の意をくみながら迅速に対応することを日頃から心がけているが、時に遅れてしまうことがあった。■保護者のみならず、地元の声や声を聞く機会があれば、学校に対しての要望や声を生かした教育活動ができるのではないかと感じる。■職員間で情報共有があまりできていないと感じることがある。■保護者からの無理な要望に応えるには限界があり困ることもある。
		ホームページ・Classi等で積極的に学校・学年・学級・クラブ等の情報発信ができたか。	B	■長聖通信、学年通信、学級通信等とおして伝えるべき内容はしっかり伝え、家庭との連携に努めている。■ホームページ、Classiにより情報発信もできている。■学校の様子がわかっていただけのように、文章表現の工夫や写真を入れる等意識して作成した。■部活動において情報発信を行った。	■Classiで確認したら「見ました」のクリックをしてほしい。■Classiの活用方法が保護者への学級通信と懇談会日程の連絡のみとなってしまった。写真など生徒の活動の様子を見てもらえる工夫が必要。■効果的な情報を多く発信することができなかった。発信する情報が保護者にとって有意義なものとなるよう創意工夫していく必要性があった。